

教育委員会の点検・評価
(平成26年度分)
報告書

平成27年6月
境港市教育委員会

1. 教育委員会の点検・評価の概要について	
教育委員会の点検・評価の概要	3
2. 教育委員会の点検・評価の結果について	
目標1：学校と家庭、地域との連携	
・市内一斉学校公開	8
・学力向上事業・よりよい学級づくり事業	9
・職場体験学習「ワクワク境港」	10
・小・中学校就学援助費	11
・児童クラブ運営事業	12
目標2：教育力の向上	
・教職員の研修活動の実施	13
・小・中学校少人数学級実施事業	14
・指導補助員配置事業	15
・国際理解教育の推進	16
目標3：社会教育の充実	
・読書活動推進大会開催事業	17
・学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業	18
目標4：体育・文化の振興	
・市民総スポーツ運動事業	19
・日韓口駅伝交流事業	20
・市美術展覧会	21
・文化振興事業	22
・海とくらしの史料館開館20周年記念事業	23
・文化ホール開館20周年記念事業	24
3. 教育委員会の活動状況について	
教育委員会の活動状況(平成26年度)	25

教育委員会の点検・評価の概要

1. 制度について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）」の改正（平成19年6月）により、教育委員会の責任体制を明確にするため、同法第26条の規定に基づき、20年度から教育委員会が、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに、公表することが義務付けられた。

2. 目的について

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育・社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会である。その役割は、専門的な行政官で構成される事務局を、様々な属性を持った複数の委員による合議により、指揮監督（レイマン・コントロール）し、中立的な意思決定を行うこととされている。

そして、その目的については、地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が、教育長以下の事務局を含む、広い意味での教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することによって、より効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすこととされている。

3. 対象事業の考え方

点検・評価の対象事業は、当該年度における教育委員会の権限に属する事務の中から、主要な事業を抽出し、担当課（学校教育課、生涯学習課）ごとに、その目的、概要、状況、成果（効果）、課題（問題点）等について点検・評価シートを作成し、事務の管理及び執行の状況についての自己評価を実施した。

4. 学識経験者の知見の活用

点検・評価の実施にあたっては、地教行法第26条第2項の規定による知見の活用を図るため、学校教育分野、社会教育分野での教育や人材育成に携わった（あるいは携わっている）学識経験者から、教育委員会事務局が作成した点検・評価シートごとの結果（自己評価）について、外部評価（指摘・助言）を受けるという形で実施した。

氏名	略歴等
盛山 啓二	前誠道小学校長
角 昇	前外江公民館長

5. 点検・評価の流れ

(1) 事務局による点検・評価

事務局が事業の目的、概要、実施状況及び成果（効果）、課題（問題点）等を検証し、点検・評価シート（事務局評価素案）を作成する。

(2) 学識経験者による指摘・助言

事務局が作成した点検・評価シートについて、各分野の学識経験者（※）により、点検・評価に対する指摘・助言を受ける。

※ 各分野の学識経験者：学校教育、社会教育における学識経験者

(3) 教育委員による点検・評価

学識経験者による指摘・助言を受け、修正したものを教育委員会に諮り、教育委員からの点検・評価を受ける。

(4) 教育委員会による承認

議会に報告する報告書を、教育委員会において提案し、審議の上、承認を得る。

(5) 議会への報告

教育委員会において承認を得た報告書を、議会（委員会）に提出し、報告する。

(6) 住民に対する説明責任

議会に報告後、ホームページに掲載し公表する。

【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

点検・評価シートの記載要領

- 1 「事業名」欄
対象となる事業名を記載して下さい。
- 2 「担当課」欄
担当課名を記載して下さい。
- 3 「事業の目的」欄
事務事業を実施する上で、特に目標としていることを記載して下さい
- 4 「事業概要」欄
事業の大まかな内容を記載して下さい。
- 5 「実施状況」欄
これまでの取り組み状況や目標達成に向かって、どのような取り組みを行ったかを記載して下さい。
- 6 「予算額」欄
当該年度の予算額を記載して下さい。
- 7 「成果・効果」欄
取組んだ中で明らかになった事業の成果・効果を記載して下さい。
- 8 「評価」欄
「実施状況」、「成果・効果」、「課題・問題点」から総合的に勘案して、次の区分により担当課で評価を行い、「評価」欄に記載して下さい。

評価区分		内 容
◎	順 調	成果・効果が顕著に現れ、目標を十分達成できている。
○	概ね順調	若干の課題はあるものの、目標を概ね達成できている。
△	やや順調でない	課題が少なからずあり、目標の達成がやや順調でない。
×	順調でない	目標を達成するための課題が多く、改善に向けた取り組みにも着手できていない。

9 「課題・問題点」欄

事業を実施した上で、浮き彫りになった課題や問題点を記載して下さい。

10 「検討事項」欄

今後に向け、整理すべき課題を記載して下さい。

11 「学識経験者の指摘・助言」欄

事業について、学識経験者の指摘・助言を受けた場合、記載する。

【目標1：学校と家庭、地域との連携】

事業名	市内一斉学校公開	担当課	学校教育課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 信頼される学校づくりを進めるため、平素の教育活動や学校等における子ども達の姿を家庭・地域に積極的に公開し、学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実を目指す。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 春に小中学校、幼稚園・保育所（園）の一斉公開を実施する。同時に開催することで、どこの施設に行っても子どもたちの様子を見てもらえるように努めた。 小中学校においては、来校者へのアンケート調査を実施し、アンケート結果を分析し、今後の教育活動の改善に役立てる。 アンケートの分析結果及び今後の取り組みについて、学校だより等を通じて各家庭に周知を図り、理解と協力を得る。 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 第1回（6月2日） 第2回（2学期に各校で実施） 		
予算額	0円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動の現状や児童生徒の状況等について、理解を深めていただくことができた。 アンケートは各校で実施し、自校及び各中学校区における取り組みの成果と課題の把握に努め、今後の教育活動改善のための資料とすることができた。 		
評価	○	概ね順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 2学期は学校行事が多く、日程の調整が難しい。できれば、中学校区単位で日程を調整させたいが、地域の行事も大切にしたいので、各校の判断に任せている。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 自主的にアンケートを行い、来校者数の増加に努めることを期待して、アンケート回答数と来校者数の報告は実施しなかった。今後も同様にしていきたい。 各中学校区の自主性に任せる形で、3学期においても、第3回目の実施を進めている。 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- 学校に関心を持ってもらう良い機会なので、取り組みを進展させてほしい。
- 子どもの親・祖父母以外の一般市民に来校してもらう取り組みになるよう、さらなる工夫があるとよい。
- 公開日や公開方法など、情報発信の工夫が必要である。

【目標1：学校と家庭、地域との連携】

事業名	学力向上事業・よりよい学級づくり事業	担当課	学校教育課								
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の一人ひとりの学力定着の度合いを把握することで、学習指導に役立て学力向上を図る。 ・児童生徒の学級に対する満足尺度を特定し、それに合わせた指導や支援を行い、いじめや不登校の早期発見・対応へつなげる。 										
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小学5年生及び中学2年生を対象に標準学力調査CRT（小学校は国語、算数、中学校は国語、数学、英語）を実施し、指導目標の実現状況や観点別学習状況の客観的な把握と、児童生徒のつまずきに対してきめ細かな指導を行う。 ・市内全児童生徒を対象に年2回 hyper-QU を実施し、学級における満足度を客観的に把握し、いじめや不登校に対する未然防止、早期発見につなげる。 										
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査 CRT を小学校5年生（国語、算数）、中学校2年生（国語、数学、英語）を対象に実施した。 ・市内全小中学生を対象に hyper-QU を年2回実施した。 										
予算額	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上事業 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>小学校</td> <td>236千円</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>377千円</td> </tr> </table> ・よりよい学級づくり事業 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>小学校</td> <td>1,612千円</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>914千円</td> </tr> </table> 			小学校	236千円	中学校	377千円	小学校	1,612千円	中学校	914千円
小学校	236千円										
中学校	377千円										
小学校	1,612千円										
中学校	914千円										
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査 CRT の結果をもとに、児童生徒一人ひとりや学校の課題を客観的に把握することで、つまずきに対してきめ細かな指導を行うことができた。 ・hyper-QU を実施することで、同じ指標をもとに児童生徒の学級内での満足度を客観的に把握し、個々に応じたきめ細かな対応や、いじめや不登校の未然防止や早期発見につながった。 ・CRT 及び hyper-QU とともに、結果について合同分析会を実施し、市内の傾向と校内分析に対する共通理解を図ることができた。 										
評価	○	概ね順調									
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査 CRT の結果をさらに活用した学習指導の調査、研究が必要である。 ・hyper-QU を活用した実践事例を参考にしながら、さらに個別に指導に活かす取組が必要である。 										
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的なデータの蓄積と予算確保が必要である。 										

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・実態をつかむのは重要な事なので、色々な方法で実態把握に努めて欲しい。
- ・その実態から、何を（どこを）どう取り組むかが重要だと思う。いかに実践するかである。

【目標1：学校と家庭、地域との連携】

事業名	職場体験学習「ワクワク境港」	担当課	学校教育課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 市内3つの中学2年生が、一斉に職場体験学習に取り組む。地域の方々に先生となっただき、地域の宝である子どもたちを協力して育てていく。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなでならいや地域の先生」を合い言葉に、子どもたちの健全育成を図る。 職場体験学習に取り組むことで、地域を知り、良さを発見する。 子どもたちを、学校と地域が一緒になって育てていく機運を高める。 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 5月26日（月）～5月30日（金）の5日間、市内113カ所の協力事業所で職場体験を行った。 原則9時から15時までの現場実習。 定休日等の活動ができない日は、学校にて自学を行う。 		
予算額	351千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 期日を一斉にしたことで、境港市の企業や事業所が一つとなって子どもたちを育てていこうとする機運づくりに貢献している。 子どもたちの元気な笑顔とがんばる姿が、地域に活力を与えているように感じる。 実習を経験することで、キャリア教育に大きな意義がある。 		
評価	◎	順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションをはかり生徒を理解するためだと思われるが、協力事業所側が必要以上に家庭環境等を聞かれる場合があり、返答に困る生徒があった。 後継者問題で廃業する事業所があり、新規開拓が必要。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報扱いや特別支援学級の生徒、不登校生徒の情報提供の在り方など保護者との連携を踏まえた細やかな対応が必要。 天候の悪化に対する備えの指導と安全教育の徹底。 知り得た情報の管理について、生徒への指導が必要。 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・体験するというのは大切なことである。ぜひ進展させて欲しい。
- ・この期間だけではなく、日常の中でも実践できないだろうか。（校種間：他校との交流・老人会等各種団体等の交流活動）応用し拡がりをみせてほしい。

【目標1：学校と家庭、地域との連携】

事業名	小・中学校就学援助費	担当課	学校教育課
事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校に通学する子ども達が学校で安心して勉強できるよう、教育費の支払いに困窮している保護者に対し、決められた費用を支給する。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 経済的理由により就学困難な児童・生徒に対し、義務教育を受けるために必要な経費を援助する。生活保護法に規定する要保護者とそれに準ずる程度に困窮している者（準要保護）を対象とし、準要保護については、年度毎に申請、認定を行う。 支給費目は要保護が修学旅行費と医療費（学校保健安全法に定めがある疾病）、準要保護は上記にプラス給食費、学用品費、校外活動費などの支払いを行う。 認定審査は随時実施しており、年度途中で家庭環境等の変化があった場合でも対応できるようにしている。14日までの申請の場合、当該月の15日認定、15日から月末までの申請の場合、翌月1日認定としている。但し、4月だけは20日までの申請であれば、4月1日認定としている。 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年3月末日現在の認定者数 準要保護児童生徒 小学生255人、中学生152人 要保護児童生徒 小学生19人、中学生14人 平成26年5月1日現在の児童生徒数から占める認定者数の割合（市内小・中学校在住者で要保護・準要保護児童生徒の割合） 小学生15.6%（前年比+0.1）、中学生16.8%（同+1.4） 		
予算額	28,897千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 教育費の支払いに困窮する保護者の負担軽減が図れた。 県内4市で給食費を全額補助しているのは本市だけで、未払い対応など、教職員の負担軽減に繋がっている。 経済的負担が大きい修学旅行代も個人のお小遣い以外全て負担しており児童生徒が安心して参加できている。 		
評価	◎	順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 要保護者以外は所得証明の提出により審査を実施しているが、所得に現れないお金の出入りや資産等の把握が困難。 一人親家庭、核家族化により、認定者数が増える傾向にある。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食費の公会計化に伴い、給食費の補助は給食費の減免に移行する。 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- 支援の必要な児童・生徒には支援をする必要がある。
- 不正受給の無い様にしっかり審査することが大切である。

【目標１：学校と家庭、地域との連携】

事業名	児童クラブ運営事業	担当課	学校教育課
事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校３年生までの児童を預かり、保護者の就労支援及び児童の健全育成、自立支援を図る。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 市内７校区に児童クラブを開設。開設時間は、通常が放課後から１７時３０分、土曜日・長期休業日は８時３０分から１７時３０分までとし、保護者の希望により、１８時３０分まで延長保育を実施している。 保護者負担金は月額３,５００円（８月は７,０００円）とし、減免制度、２人目以降の減額制度も設けている。 主任（嘱託職員）を各クラブ１名配置し、主任を中心にクラブ運営を実施している。 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成２７年３月末日のクラブ在籍者数 渡３３人、外江４４人、境３１人、上道３０人、余子３０人、中浜３３人、誠道１１人 		
予算額	４２,５９４千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 共働き世帯やひとり親世帯における低学年児童の安全・安心な居場所を提供し、保護者の就労支援に繋がっている。 児童の基本的な生活習慣（しつけ）取得の手助けができた。 		
評価	○	順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 入会者数が増えており、長期休業中に施設の規模以上の児童数になることが懸念される。 児童・保護者のニーズが多様化しており、指導員も質の向上（保育能力、保護者対応能力）が求められている。 勤務時間が不規則なため、募集をかけても指導員の確保が困難。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> しつけ等については、クラブだけの指導では難しい面もあるので、家庭、学校との連携を今まで以上に図る必要がある。 国の制度改正による「預かり児童の対象年齢の引上げ」及び「入会児童数の増加」に対応するため、クラブ開設場所の検討が必要。 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- 落ち着いた環境の中でクラブの運営ができるよう、保護者や学校と連携を図っていくことが大切である。

【目標2：教育力の向上】

事業名	教職員の研修活動の実施	担当課	学校教育課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員としての使命感と専門職としての自覚を深め、指導力の向上に努めるとともにそれぞれの立場から組織力を引き出すための教育力の育成に努める。 ・市の教育目標達成に向け、一貫性のある教育体制づくりに努める。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究会を通して、個々の授業力向上と各校の課題解決に向けた取り組みについての指導・助言を行う。 ・市教委主催の研修会を実施することにより、それぞれの担当に求められる資質や能力の向上を図る。 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・若手教員研修会（年2回） ・管理職研修会（年1回 校長・教頭対象 年度当初に実施） ・管理職等研修会（年1回 教頭、管理職登載者対象に実施） ・法規研修会（年1回 管理職を目指す者） ・10経年未満教員研修会（年1回） ・マスター教員研修会（年1回 満55才以上管理職非登載者） ・人権教育主任研修会（年2回実施） ・生徒指導担当者研修会（年1回実施） ・CRT分析検討会（年1回実施） ・hyper-QU分析検討会（年1回実施） ・不登校担当者会（学期に1回） ・校内授業研究会（各校で年1回以上実施）への参加 ・小・中学校生徒指導連絡会への参加（中学校月1回、小学校2ヶ月1回） ・講師の授業力向上のための訪問指導（1学期は合同実施、2学期は中学校区で実施、3学期は市内代表校で実施） ・校種間連携（保・幼・小・中）のための交流研修 ・事務共同実施研修会（年2回実施） 		
予算額	0円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・経験年数や校務分掌に応じた研修開催により、自校の組織力向上のための自らの役割について、自覚を深めさせることができた。 ・他校の教職員や小中の校種を越えた「つながりの場」を持つことにより、縦横の連携の重要性についての認識が深まった。 		
評価	◎	順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の自己改革に繋がる研修の実施 ・ベテラン教員の更なるスキルアップのための研修が必要。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のニーズに合った研修内容の工夫改善と情報の提供。 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・研修者にとって主体的な研修になるよう、研修内容・研修方法をさらによりよく改善して欲しい。

【目標2：教育力の向上】

事業名	小・中学校少人数学級実施事業	担当課	学校教育課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 市内小中学校の全学年で少人数学級を実施することにより、集団生活のルールや学習習慣を身につけさせる。また、個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着を図る。 児童生徒一人ひとりの生活にきめ細かく対応することにより、人間関係づくりへの支援や不登校、いじめ等の発生予防に努める。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 小1・2年生で30人以下、小3～6年生で35人以下、中1年生33人以下、中2・3年生で35人以下において1学級を編成する。小3～6、中2・3年で1学級当たり、2,000千円の協力金を県に提供する。 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度2,000千円の協力金対象校 境小4年、余子小4年、第一中2年、第二中2年、第三中3年 平成26年度県費全額負担対象校 余子小1年 		
予算額	12,000千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態把握や学習状況、生活態度への支援が今まで以上に行き届き、一人ひとりに対してよりきめ細やかな対応が可能になり、小1プロブレムや中1ギャップの解消につながっている。 少人数での安心感から、子どもたちの人間関係の構築がスムーズに進んでいる。 		
評価	◎	順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 少人数学級の実現には教員の増員が必要であり、県の協力が不可欠となる。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 県が打ち出している全学年での少人数学級実現に向けては、教員の増員が絶対条件となるため、質の低下を招くことがないように、働きかけが必要。 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- 個に対応するには現在の1学級の児童生徒数でもまだ多いと思う。適正な児童数を検討しながら、自己肯定感を高めていける指導に心がけてほしい。

【目標2：教育力の向上】

事業名	指導補助員配置事業	担当課	学校教育課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 学習面や生活面において、様々な課題を持つ児童生徒や学級に対し、個別な関わりや特別な支援を行うことによって、適切な教育活動を行い、教育効果を上げる。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 小学校13名、中学校6名、計19名の指導補助員を配置する。 週29時間の勤務で、担任とのチーム・ティーチングにより、各学校の課題解決や子ども達への適切な支援活動の一助となる。 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥／多動性障がい）等、特別な支援を必要としている子ども達への関わりを中心に、各校に指導補助員を配置している。 小規模校である誠道小学校以外の9校で複数（2名）配置としている。 特別な支援が必要な子どもに対しては、「個別の指導計画」を作成している。これによって、短期、中期、長期的な目標を設定し、見通しをもった継続的な支援に努めている。 		
予算額	19,836千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な子どもへの関わりにより、個人が安定することによって、その他の子ども達や学級全体が、落ち着くようになった。 個に応じた細やかな指導や支援が、学習の定着に繋がった。 担任一人で抱え込むような負担が軽減され、そのことによって、学級経営や授業づくりの充実を図るためのゆとりが生まれた。 子どもをより多面的に見ることにより、保護者に子どもの良い面を多く伝えることができ、その結果、学校と家庭との信頼関係の構築にも繋がっている。 		
評価	◎	順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 特別な教育的支援を必要とする児童生徒数は年々増加しており、現状の人数でも厳しい場面がある。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 県教委からの加配教員配置等を有効に活用しながら、併せて教員の増員について要望していく必要がある 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- 支援を必要としている子どもたちは、増加傾向にある。その子どもたちに関わる教職員はじめ、指導員の障がいの理解や研鑽を怠らずに実施していくことが必要である。
- 担任と補助員の綿密な打合せも必要である。

【目標2：教育力の向上】

事業名	国際理解教育の推進	担当課	学校教育課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年度より「国際理解教育推進事業」において、毎年市内中学生を中国（平成20年度韓国）に派遣してきたが、本年度は大気汚染や鳥インフルエンザの発生等を考慮し、前年度に引き続き本事業を「東北震災現地研修」へ振り替えることとした。 ALTを活用し、英語教育を中心とした国際理解教育を推進した。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 被災地を訪問し、その現状や被災地の人々の思いを受けとり、今後の自らの行動につなげる。 実体験を通して、自ら学んだことを学校等周囲に還元する。 境港市の中学の代表として、様々な思いを伝えながら、被災地と本市をつなげる役割をする。 市が雇用する外国語指導助手（ALT）を市内に1名配置し、中学生が外国人とふれ合う機会を設けることによって、英語によるコミュニケーションへの意欲と能力を高めた。 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 市内中学生9名による東北震災現地研修（3泊4日）を釜石市等で実施した。事前研修会を2回実施し、研修後は各学校において報告会を開催した。 ALTに中学校区の小学校・中学校を巡回させ、英語における授業のサポートを行った。 		
予算額	1,509千円(国際理解教育推進事業) 5,018千円(外国語指導助手招致事業)		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 境港市の中学生の代表として被災地を訪問し、語り部等の話の中から、その現状や多くの人々の思いを受け取ることができた。また、研修後、各学校で研修報告会を行い、研修の成果を生徒や教職員に還元した。 ALTに対して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲が見られるようになった。 中学校だけでなく、小学校外国語活動や集会等で積極的にALTを活用する事例が増えてきた。 		
評価	○	概ね順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 近隣アジア諸国を取り巻く社会情勢が不安定であり、来年度以降も東北震災現地研修へ移行する可能性がある。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 近隣アジア諸国の状勢を見極めながら、国際理解教育の推進に向けた研修地を選定していく必要がある。 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- 被災地の訪問は良い体験になる。多くの子ども達に参加させてやりたい。
- リーダー研修にも役立っているようで、喜ばしいことである。
- 国際理解教育を進めるために、様々な施策を展開してほしい。

【目標3：社会教育の充実】

事業名	読書活動推進大会開催事業	担当課	生涯学習課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタートに始まり、「朝読」、「ファミリー読書」というように、赤ちゃんから大人まで生涯を通じた読書活動の推進を図る。 ・「読書まつり」を実施し、読書の楽しさ・大切さを伝える。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ団体等による読み聞かせ、読書に関する展示、その年々のテーマに沿った講演会等を開催し、様々な形で読書活動を市民に周知し生涯読書の推進を図る。 ・平成24年度から「読書活動推進大会開催事業補助金」として実施。 		
実施状況	<p>◎テーマ 『境港市読書まつり』～赤ちゃんから大人まで本で楽しいひとときを～</p> <p>日時場所 11月30日(日) 11:00～15:00 市民図書館周辺</p> <p>参加人数 約250人</p> <p>講演会 演題 『本でつながる街づくり』 講師 西尾 肇さん(元鳥取市立中央図書館長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども科学体験教室(米子工業高等専門学校出前講座) 対象：低学年～一般 ・赤ちゃんを対象としたお話会(境港親と子どもの劇場) ・1箱本屋さん(一般公募) ・大活字本・大型絵本・ドイツ古典絵本の復刻本・布絵本・点字資料展示 ・学校図書館展示(各小・中学校図書館の取り組みを紹介) ・韓国絵本の読み聞かせ ・写真展示・・・赤ちゃん登校日、ブックスタート、読み聞かせ団体による読み聞かせの様子、デジカメクラブ(境公民館)、家族と本のある風景(一般公募) ・手作りカフェ、バザー(境港市女性団体連絡協議会) ・本に関する図書館クイズラリー(5箇所) 		
予算額	102千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書まつり」を小学校連合図工作品展の開催合わせ実施。ここ5年間では、最高の参加者があり、読書の楽しさを周知できた。 ・市民図書館を中心に、小・中学校、読み聞かせ団体等の関係団体と一緒に事業を実施することで、交流、意見交換、研修の場にもなっている。 		
評価	◎	順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は多くの方にお越しいただいたが、更に参加者を増やしたい。また、中高生の参加を増やしたい。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・広報の仕方・目玉となる企画の検討。 ・中高生の当日参加は難しいため、準備段階での参加を検討。 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・司書やボランティアによる読み聞かせの取り組みは随分進んでいるように思いますが、家庭での読み聞かせの広がりはどうでしょうか。色々な意味で、親による読み聞かせに勝るものはないと思います。

【目標3：社会教育の充実】

事業名	学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業	担当課	生涯学習課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを取り巻く環境が大きく変化するとともに、家庭や地域の教育力が低下している。未来を担う子ども達の健全育成を図るため、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりを引き続き目指す。 学校・家庭・地域の連携協力のための様々な取り組みを支援し、社会全体の教育力の向上を図る。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度より教育委員会事務局内に学校支援コーディネーターを配置し、市内小中学校10校と学校ボランティアとの調整を図りながら、学校の要望に応じて様々な教育活動を支援する。 国の委託事業を平成23年度から国県の補助事業として実施。「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」（市1/3負担） 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 学校の要望に応じて様々な教育活動を支援した。 →登下校安全指導、読み聞かせ、環境整備等 「コーディネーター便り」を配付し、事業内容の啓発を図った。 配布先：学校、保護者、公民館、当該ボランティア等 		
予算額	1,151千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は、子ども達の「安全・安心」を脅かす不審者の出没が多発。それを受け、見守り隊の立ち上げに力を注ぐ。 市内全域に見守り活動が広がり、不審者が出没する事案が減少。 ボランティア登録人数の大幅増。（134名→215名） 		
評価	○	概ね順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 中学校からの依頼がなかった。 ボランティアの輪は広がっているが、長く取り組みを続けるためには、より多くの方に参加していただくことが必用。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 学校毎に、この事業への取り組み方、ボランティア登録者数に差がある。事業の概要、必要性、効果等の周知の仕方を検討。 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- 学校・家庭・地域の連携協力は多岐にわたり、何を持って教育支援活動と言うか分かりませんが、地域によって色々な取り組みをしていると思います。その概略でも分かれば大変参考になり、各地区の取り組みが一層推進されると思います。

【目標4：体育・文化の振興】

事業名	市民総スポーツ運動事業	担当課	生涯学習課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを推進する。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 健康ウォーク大会や市民体力テスト等を開催するほか、指定管理者である境港市体育協会や境港スイミングスクールと連携し、体育施設の無料開放を実施する。 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 第8回境港市健康ウォーク大会 開催日 平成26年5月25日（日） 参加者 132人（前年比127%増） コース：旧中浦水門～江島大橋（往復）（約6km） 市民体力テスト 開催日 平成26年10月13日（月・祝） 会場 第2市民体育館 参加者 37人（前年比51%減） ※当日悪天候のため参加者減 		
予算額	111千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 健康ウォーク大会は、「ベタ踏み坂」効果もあり、参加者数が前回より増加した。大会の開催を通じ、日頃の運動の必要性やウォーキングの楽しさを周知することができた。 体力テストでは自己チェックとともに日常生活に運動を取り入れることの動議づけとなった。 		
評価	○	概ね順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの参加者数が伸び悩んでいるため、関係機関との連携など、参加者拡大へ向けた取り組みが必要である。 		
検討事項			

※ 学識経験者による指摘・助言

- 市内でどこかに集合してから開会するというスタイルは、会場から遠い地区の人は集合場所まで自動車か自転車で行くことになり、出足が鈍ると思います。例えば、各公民館に協力をお願いし各館は独自の企画を立て、7地区から出発し、決められた場所・時間に集結し大会（？）を開いてまた帰って行くと言ったようなスタイルがあっても良いのではないかと思います。一つの方法にこだわらず色々やってみれば良いと思います。

【目標4：体育・文化の振興】

事業名	日韓口駅伝交流事業	担当課	生涯学習課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 日本・韓国・ロシアの友好促進を図り、相互都市発展のため、文化・スポーツなど多方面での交流を推進する。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> DBSクルーズフェリーの利用拡大による国際交流の推進を目的に、ロシア・ウラジオストク市と韓国・江原道から「第14回鬼太郎カップ境港駅伝競走大会」へ、選手を招聘する。 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 駅伝開催日 10月19日（日） 駅伝コース サカイマリンマラソンコース（7区間） 参加チーム チーム 77チーム （内訳：一般37、自衛隊6、大学9、高校25） <p>※ウラジオストク市から7名が参加。東海市（江原道）チームは、国内大会と日程が重なったため不参加。</p>		
予算額	1,885千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 主催者である日本海新聞に記事が掲載されることで、山陰地方全般に韓国・ロシアの雰囲気やDBSクルーズフェリーが広報され、今後の国際交流の進展につながる事業となった。 ウラジオストク市選手が「境港ジュニアアスリートクラブ」に所属する地元の小学生と交流を図り、児童の国際理解の一助となった。 		
評価	○	概ね順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 東海市単独では選手の確保が難しい上、毎年同時期に国内大会が開催されるため、東海市または江原道からの選手招聘は今後も難しいと考えられる。選手の招聘範囲・渡航経費の負担方法等を検討する必要がある。 		
検討事項			

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・今日の日・韓・ロ関係を考えると障害も多くあると思いますが、息の長い取り組みが必要だと思います。
- ・テレビ実況にも耐え、他地域の大会に負けない魅力有る大会に育ててほしいと思います。そうすれば地域の活性化にも繋がると思います。
- ・沿道の応援がもう少し強くなるような宣伝も必要だと思います（特に内浜地域）。

【目標4：体育・文化の振興】

事業名	市美術展覧会	担当課	生涯学習課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・広く市民から美術作品を募り、優れた作品を展示することにより、作品の発表と鑑賞の機会を作り、市の美術振興を図る。 		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市の文化振興を図るため、絵画・工芸・彫刻・書道・写真の5部門で、市民から美術作品を募集し、優れた作品を展示する。 		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・会期 6月14日（土）～18日（水） ・会場 市民会館 ・出品点数 絵画34点、工芸38点、彫刻2点、書道66点、写真29点 計169点（前年比6%増） ・入場者数 617人（前年比3%減） 		
予算額	681千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・制作者の高齢化等により出品数が減少傾向にある中、書道部門においては出品数が増加しており、中でも高校生が積極的に出品している。 		
評価	○	概ね順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では前回に比べ出品数が増加したが、工芸・彫刻部門は制作者の高齢化等により、出品数が減少傾向にある。 ・来場者数が減少傾向にある。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、高校生や公民館活動参加者への出品促進など、底辺の拡大を図るようPRを行う。 ・入場者増につなげるため、展示内容の見直し、特別企画の開催等を検討する。 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・全体に元気が無いように感じます。
- ・高校生だけでなく、小中学生にも門戸を開いても良いではないでしょうか。会場や取り扱い、審査などの問題もありますが観客の動員力は抜群です。

【目標4：体育・文化の振興】

事業名	文化振興事業	担当課	生涯学習課
事業の目的	・境港市文化振興財団と連携を密にして、市民が気軽に芸術・文化に親しむことのできる機会を提供し、市の文化振興を図る。		
事業概要	・市民の音楽活動の振興を目的に、サロンコンサートやピアノコンクールを開催するほか、シンフォニー少年少女合唱団を育成する。		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンコンサート（文化振興財団に委託） <ul style="list-style-type: none"> 開催日 平成26年4月～平成27年3月（1・2月除く） 会場 文化ホール（喫茶コーナー） 入場者 延べ520人（前年比17%減） ・ピアノコンクール <ul style="list-style-type: none"> 開催日 7月15日（月・祝） 会場 文化ホール 参加者 84人（前年比9%減） ・シンフォニー少年少女合唱団 <ul style="list-style-type: none"> 団員 20人（幼稚園年長～高2） 活動 地域の各種イベントへの出演、定期演奏会の開催 ＜定期演奏会＞ 開催日 平成27年3月22日（日） 会場 文化ホール 来場者 186人 		
予算額	1,993千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の練習の成果を発揮する場を提供することができた。 ・多くの市民が会場を訪れ、芸術・文化に親しむことができた。 		
評価	○	概ね順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンコンサートの来場者が固定化しつつある。 ・シンフォニー少年少女合唱団の団員が減少傾向にある。 ・ピアノコンクールの参加者が減少傾向にある。 		
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンコンサートは多彩な音楽鑑賞の機会となっており、多くの方に来場いただく取り組みが必要である。 ・シンフォニー少年少女合唱団団員・サロンコンサート入場者・ピアノコンクール参加者の増加へ向けた取り組みを行う。 		

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・音楽にはクラシックから民謡まで様々なジャンルがあり、各地区には施設訪問などのボランティアで活躍するグループも沢山あります。特定のジャンルに偏らないようにしたり、名のある演奏者の公演を考えても良いではないでしょうか。

【目標4：体育・文化の振興】

事業名	海とくらしの史料館開館20周年 記念事業	担当課	生涯学習課
事業の目的	海とくらしの史料館の開館20周年の節目の年、館のメインテーマである「海・魚・港」をテーマとしたイベントを開催し、館に対する市民の関心を高めていく。		
事業概要	海とくらしの史料館開館20周年を記念し、①魚食に関する新聞記事の展示 ②写真家・古徳博美氏による、境港の風景をテーマにした写真展を開催した。		
実施状況	<p>「境港おさかなガイド 市場魚っち～境港の魚と港と食に関するパネル展」（魚食に関する新聞記事の展示）</p> <p>会期 平成26年7月2日（水）～7月28日（月）</p> <p>会場 海とくらしの史料館</p> <p>展示内容 境港おさかなガイドが執筆した、魚食に関する新聞記事</p> <p>入場者数 1,273人</p> <p>「境港の美景・再発見～古徳博美写真展～」</p> <p>会期 平成26年10月1日（水）～11月3日（月・祝）</p> <p>会場 海とくらしの史料館</p> <p>展示内容 古徳博美氏が撮影した、境港周辺の風景写真</p> <p>入場者数 1,830人</p>		
予算額	114千円		
成果・効果	魚食に関する展示では、地元で獲れる魚の特徴や調理方法を展示し、古徳博美氏の写真展では、地元の風景を撮影した作品を展示することにより、市民が、地元の魅力を再認識する機会を提供することができた。		
評価	○	概ね順調	
課題・問題点	海や魚など、地元の魅力を市民に知ってもらう機会を今後も提供していく必要がある。		
検討事項			

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・記念事業には来館していませんので評価出来ませんが、古徳さんの写真は貴重なものが沢山あったと思います。史料館の目玉は何でしょうか、市民がもう一度、観光客は是非行きたくなるような魅力有る史料館にしてほしいと思います。

【目標4：体育・文化の振興】

事業名	文化ホール開館20周年記念事業	担当課	生涯学習課
事業の目的	市民会館が耐震改修等で利用できなくなり、市民の文化活動が低迷するおそれがある中、市民が芸術に親しむ機会を提供していく。		
事業概要	文化ホール開館20周年を記念し、文化振興財団との共催により、地元出身の声楽家による演奏会を開催した。		
実施状況	<p>「文化ホール開館20周年記念 徳山奈奈ソプラノコンサート」</p> <p>開催日 平成26年7月13日（日）</p> <p>会場 境港市文化ホール</p> <p>出演者 徳山奈奈（境港市出身）・シンフォニー少年少女合唱団</p> <p>入場者数 377人</p>		
予算額	370千円		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 市民が芸術に触れる機会を提供できただけでなく、共演した合唱団の子ども達にとっても、今後の活動の励みとなった。 		
評価	○	概ね順調	
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、市民が芸術に触れる機会を提供していく必要がある。 		
検討事項			

※ 学識経験者による指摘・助言

- 境港市出身の芸術家の公演は市民の文化レベルの向上や啓蒙だけではなく、同じ道を志す者に大きな力を与えてくれたと思います。大変有意義だったと思います。

教育委員会の活動状況（平成26年度）

1. 教育委員会委員

職名	氏名	任期	備考
委員長	遠藤 恵裕	H18.10.07~H22.10.06 H22.10.07~H26.10.06	任期満了 (退任)
委員長	足立 ひと美	H23.11.01~H27.10.31	
委員長職務代理	永井 美央	H18.10.01~H20.10.25 H20.10.26~H24.10.25 H24.10.26~H28.10.25	保護者
委員	谷田 真基	H25.10.01~H29.09.30	保護者
委員	赤石 有平	H26.10.07~H30.10.06	
委員（教育長）	佐々木 邦広	H23.04.01~H24.10.25 H24.10.26~H28.10.25 ※教育長の任期は 23.04.02~	

2. 教育委員会の開催状況

平成26年度は、定例教育委員会会議12回、臨時会議3回、書面決議1回を開催し、議案20件、協議事項17件について審議を行っている。

3. 教育委員会委員の主な活動（定例会臨時会以外）

- 入学式・卒業式への出席
- 運動会・音楽会・文化祭等への出席
- 学校訪問（一斉公開日等適宜）
- 研修会・協議会への参加
- その他各種行事等への出席

4. 委員会活動の情報発信

委員名簿をはじめ、教育委員会の概要を境港市ホームページで紹介している。
委員会の開催日時について、事前に境港市ホームページに掲載するとともに、告示している。

会議録は、次回の委員会時に各委員に確認してもらった後に、ホームページに掲載している。

5. 教育委員会の会議の開催状況について（◆：議案、◇：協議事項）

開催日	件 名
4月23日	◆境港市公民館運営審議会委員の委嘱について ◇平成26年度予算の概要について
5月29日	◆境港市渡公民館長の任命について ◆境港市青少年育成センター運営協議会委員の委嘱について ◆境港市公民館運営審議会委員の委嘱について ◇教育委員会の点検・評価について
6月26日	◇6月定例会市議会教育委員会関係質問答弁について ◇学校給食用牛乳について ◇境港市中学生東北震災現地研修について
7月24日	◆境港市就学指導委員会委員の任命について ◆境港市公民館運営審議会委員の委嘱について
8月7日	◆平成27年度から平成30年度に使用する小学校教科用図書の採択について ◆境港市就学指導委員会委員の任命について
8月27日	◆境港市社会教育委員の委嘱について ◆境港市図書館協議会委員の任命について
9月25日	◇全国学力・学習状況調査について ◇9月定例会市議会教育委員会関係質問答弁について
10月7日	◆境港市教育委員会委員長の選挙について ◆境港市教育委員会委員長の職務を代理する者の指定について
10月29日	◇平成27年度当初予算編成に係る概算要求について ◇平成27年度学校予算に係る要望について ◇学校施設及び環境整備等教育に関する要望事項
11月27日	◇学校給食用牛乳の採択について
12月25日	◇12月定例会市議会教育委員会関係質問答弁について
1月27日	◇境港市民体育館の耐震診断について
2月27日	◆平成27年度学校教職員の研修方針について ◇不登校児童数について ◇hyper-QUについて ◇美保飛行場周辺まちづくり構想（案）について
3月10日	◆平成26年度末教職員人事異動について
3月25日	◆平成27年度境港市学校教育推進の重点について ◆境港市民図書館施行規則の一部を改正する規則の制定について ◆地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴う関係規則の整備に関する規則の制定について

	<p>◆境港市学校給食センター設置条例施行規則の制定について</p> <p>◆公職選挙法による個人演説会の開催等に関する規程の一部を改正する規程の制定について</p> <p>◇3月定例会市議会教育委員会関係質問答弁について</p>
3月31日	<p>◆境港市教育委員会事務局組織に関する規則の一部を改正する規則の制定について</p>